

# RAINBOW通信

第3号

発行日: 2008/10/20  
 発行者: 桐蔭横浜大学ハンドボール部  
 問合せ先: 岡本大研究室045-974-5753  
 URL: <http://www.cc.toin.ac.jp/sc/handball/>



## 7部優勝

「秋季リーグ対戦成績&個人表彰」

桐蔭横浜大	20 ● 22	高崎経済大
	27 ○ 21	東京工大大
	41 ○ 28	杏林大
	34 ○ 19	東京農工大
	39 ○ 18	山梨学院大
	51 ○ 21	日本工業大

プレーオフ!

準決勝	36 ○ 28	千葉工業大
決勝	27 ○ 22	高崎経済大

### 秋季リーグ 勝手に表彰!

最優秀選手…山根 諒介  
 優秀選手…須賀 勇輝  
 丸井 隆雄  
 敢闘賞…本杉 謙典  
 速攻賞…野村 晋介  
 肉体賞…石井 久也  
 怪我賞…高橋 溪

秋季リーグ ☆得点ランキング☆  
 総得点 275得点

1番…石井	17得点
2番…須賀	62得点
3番…野村	22得点
4番…高橋	58得点
5番…山根	84得点
6番…本杉	5得点
7番…丸井	27得点

「いざ出陣！」

監督 岡本 大

7部優勝! 6部昇格決定!!

狙っていた結果獲得! しかしながら、桐蔭として初めて臨んだ今シーズンの目標達成への道のりは、起伏の激しい決して平坦なものではありませんでした。

7人ぎりぎりのチーム。女子と私を入れても10人の練習。各個人が2人分の責任と実行力を発揮しなければなりません。

リーグ戦も記念すべき初戦において、トレーニングにより培ったパフォーマンスを発揮できない大きなショックを受ける敗戦からのスタートでした。もう一度も負けられないプレッシャーの中でも、もう二度と負けたくない、勝利の涙をとの強い想いが、チームを一つにし、厳しい戦いの道のりを乗り越えさせてくれました。

試合では、熱い情熱の中でも冷静にプレーしなくてはいけないことを学びました。また、まだまだレベルの低いこんな私たちのために、大変多くの方がメールなどによりご声援を、また応援に来てくださり、みなさまの応援してくれる想いが、自分達の力、勇気になることを本当に感じました。7部優勝の感動を共有できたことは大変うれしく思っています。

まだまだひよこのチームですがこれからもみなさまへの感謝の気持ちを忘れずに、絶対立ち止まりません。全力で夢を追いかけていきたいと思えます。

本当にありがとうございました。

「No Rain, No Rainbow」

★小さいけれど、美しい虹がかかりました★

## 秋季リーグを終えて…

山根 諒介

大会初日の高崎経済大学戦、自分たちの今までの成果を存分に発揮せんと臨んだ初日でありましたが、結果は2点差での敗戦。自分たちが今まで積み上げてきた努力が根こそぎ崩されてしまったかのような絶望でした。選手全員が悔しさに涙を流しましたが、試合終了後、岡本先生を含め全員で雪辱を誓ったのです。この敗戦は自分たちのプレーやハンドボールに対する姿勢を見つめ直す大きな機会にもなったと思います。チームの目標と目的の再確認から、攻守におけるビデオ分析、さらに学生としての態度などをミーティングで話し合いました。

背水の陣で臨んだそれからの5試合は、負けの許されない重圧の中での戦いでしたが、チーム一丸となった攻守で勝利をおさめることができました。そして迎えたプレーオフ、準決勝の千葉工業大を撃破し、決勝の相手となったのは因縁の高崎経済大。一進一退の攻防の中、決勝後半に仲間の一人が負傷してしまいました。初戦から7人ギリギリのメンバーで戦ってきた私たちに代わりの選手はいません。ですがそんなギリギリの状態だからこそ仲間を信頼することができたのではないかと思います。足を引きずりながらもコートに立ち続ける仲間、そしてそれに奮起するチームメイト、私たちがどのチームにも負けられない強さはこの絆です。

私たちは悲願である「7部優勝、6部昇格」を果たすことができました。しかしこうした結果も多くの方々の支えなしには決して成し遂げられるものではありません。そうした支えに心から感謝するとともに、次の目標に向かい邁進していきたいと思ひます。



## ☆祝勝会☆

高橋 溪

秋季リーグを無事に優勝という最高の形で終え、見事に役目を果たしました。そして、頑張ったご褒美として大先生が自宅にて祝勝会を開いてくれました。いつも行きつけの温泉に連れて行ってもらい、ゆっくりとお風呂に浸かり、普段の疲れを癒しました。そのあとは新しく発見したラーメン屋に行き、ご飯を御馳走になりました！大先生の家につき、プレーオフのビデオを見て自分達のプレーの反省点を探しつつ、自分たちがやってのけた優勝の意味を実感しました。ビデオを見た後はそれぞれ今年の秋季リーグを終えて、どう感じたかや今までこの半年間の気持ちを一人一人みんなに伝えていきました。そして、大先生の思いも語ってもらいました。そこで明かされる一人一人の思いなどを聞き、また新たに強い絆が生まれました。

「No Rain No Rainbow」

## 初心者として～2008年

石井 久也 本杉 謙典 野村 晋介

初心者として、0の自分にハンドボールを注ぎ込んだ半年となりました。何もわからずただ一生懸命ボールを握っていたスタート、今年の目標”六部昇格”というゴールがどこにあるのかまったくわかりませんでした。しかし、大先生の下、基礎からチームのフォーメーションまで幅広い練習に加え、数々の練習試合を行い、いよいよ来たる秋リーグが始まりました。初めての大一番、緊張を隠せませんでした。そんな初戦から一試合一試合、試合を重ねるたびに、経験という大きな財産となって自分を成長させてくれました。高崎経済大学との決勝戦、手に汗握る展開の中、一点を取った時の感動は言葉に表せないものでした。人生の中から見れば、たった半年だけでも、自分の中にはとてもとても大きい時間となりました。ハンドボールを教えてくださいの大先生、応援に来てくださった先生方や保護者の方々、そしてハンドボールをやらせてもらっている両親に深く感謝しています。次は春。新たな目標に向けて、また大きく進んでいきたいと思ひます。

## 来年に向けての準備

丸井 隆雄

自分達、桐蔭横浜大学ハンドボール部は今年7部から6部に昇格する事ができました。その結果にチーム全員が歓喜し、その喜びを分かち合いました。しかし、いつまでもその余韻に浸っているわけにもいきません。今回のリーグ戦で自分達の未熟な点もわかり、今のままではダメだということを実感しました。来年のリーグ戦のためにチームとしてはもちろん、個人の力を上げなくてはいけないと思ひます。今6部の大学のチームも次のリーグまでの期間は同じですが、その期間をどの大学よりも努力をしていきます。そして次は今回よりも大きく綺麗な虹をかけたいです。

「応援に来てくださった方達  
～2008年 秋季リーグ」

【御家族】

《山根・須賀・高橋・本杉・丸井・石井・野村》

【先生】

《時本先生・岡本（真）先生・箱木先生・田中先生・福井先生・木原先生・吉田先生（国士館大）・稲葉先生（生田高校）》

応援に来てくださり、本当にありがとうございました。